

第5学年 道徳（防災学習）学習指導案

平成24年12月5日（水）第5校時

児童数 5年1組 20名（男子12名、女子8名）

指導者 5年1組担任 山本 由香

学習室4担任 藤田 真千

1. 主題名 「尊い命」 3－（1）生命尊重

2. ねらい 生命がかけがえのないことを知り、自他の生命を尊重しようとする心情を育てる。（推進の視点B）

3. 資料名 「稲むらの火」（出典「稲むらの火」 童心社紙芝居）

4. 主題設定の理由

昨年の東日本大震災以来、地震に関する報道や啓発活動が以前にも増して盛んに行われるようになり、南海大地震に対する関心は日に日に高まってきている。水深が浅く、奥行きが狭まった須崎湾沿岸の地域という地理的な要因もあり、本校は保護者や地域の防災意識もたいへん高い。「地震が起きても一人の犠牲者も出さないでほしい」という学校への期待は大きく、児童の命を守ることは学校にとっても大命題である。本主題では、地震に被災した後、大切な稲むらを犠牲にしても村人を助けようとした先人の行いを通して、命を最優先する判断や行動のすばらしさを感じ取らせ、自分だけでなく他人の生命も大切にしようとする心情を育てることをねらうものである。

本学級の児童は、1学期には自分の名前の由来や妊婦さんといっしょに命の尊さについて考えてきた。しかし、自分や他人の命を大切に出来ていない言動がまだ見られる。自分自身を大切にし、相手を尊重し、命あるものを大切にする心情を育てていかなければならない。また、今までに南海地震啓発用デジタル教材「南海地震に備えちょき」を使つての学習や防災キャンプ、授業中や休み時間などに繰り返し行ってきた避難訓練などを通して地震についての知識や避難の仕方も身に付けてきている。しかし、実際に地震や津波に襲われたとき、日頃の学習を生かして冷静に行動できるとは限らない。災害時や危急のとき、周りと協力して互いに助け合いながら多くの命を救った主人公の行動をもとに、生命尊重の意識を深化させたい。

本資料は、1854年の安政南海地震の時に、紀州有田郡広村での事実をもとに作られた物語である。地震の後、目前に迫る津波を確認した濱口儀兵衛は、とっさの判断で大切な稲むらを燃やすことによって津波の襲来を村人に知らせようとする。その火を見て火事だと思った人々が、高台にある儀兵衛の田んぼに駆けつけたことで津波に巻き込まれず、多くの村人たちの尊い命が救われたという内容である。農民にとって貴重な稲むらに火をつけることは相当勇気がいることであるが、それと同時に多くの人々に危険をいち早く知らせる方法としてもたいへん効果的である。本来なら決断するのにかなりの勇気を必要とする行為に対して儀兵衛はいささかの逡巡もなく行動に移している。ただ大切な人命を救うことだけを考えて行動する儀兵衛の姿勢に焦点を当てることでねらいに迫りたい。

5. 指導計画（全2時間 本時1／2）

日常生活 ・健康しらべ ・日記指導など	道徳（1時間） 「稲むらの火」（生命尊重） ・何よりも人命を大切にした主人公の心情を考えることを通して生命の尊さについて考えを深める。	特別活動（学校行事） ・防災学習 ・避難訓練など
	特別活動（1時間）【学級活動(2)】 あなたならどうしますか？ ・災害時に遭遇する様々な困難な事態について、自分なりに最善の策を見出していく方法を考える。	

6. 本時の学習の流れ（○主な発問 ◎中心発問 ・予想される児童の反応）

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	教師の支援（・）評価（※）
導入	1 資料の時代背景や稲むらについて知る。	○時代背景や稲むらの大切さを説明する。	・紙芝居の1枚目を見せて、儀兵衛の立場や稲むらの重要性を理解させる。
展開	2 資料「稲むらの火」を読んで話し合う。 (1) 地震が来た時の儀兵衛の心情を考える。 (2) 津波を察知した時の儀兵衛の心情を考える。 (3) 稲むらに火をつけた時の儀兵衛の心情を話し合う。	○地震が来たとき儀兵衛はどんな気持ちになっただろう。 ・今までにない揺れだ。 ・これはたいへんなことになるぞ。 ・村人は大丈夫だろうか。 ○津波が来ることを察知した儀兵衛は、どんな気持ちで村を見ていただろう。 ・今は祭りどころではないぞ。 ・早く逃げろ。 ・何とか早く知らせなければ。 ・どうやって知らせたらいいのだろう。 ◎稲むらに火をつける時の儀兵衛はどんなことを考えただろう。 ・火をつけたらせっかくの稲むらが無駄になってしまう。 ・もったいないが仕方がない。 ・稲むらよりも人の命が大事だ。 ・みんな気づいてくれ。	・これまでにない特別な揺れに遭遇した儀兵衛の不安や心配に共感させる。 ・第二の恐怖である津波の襲来を察知した儀兵衛の不安や焦りに共感させる。 ・何のためらいもなく稲むらに火をつける儀兵衛の決断力や人命を最優先する姿勢に気づかせる。 ・ペアで対話させていく。 ※何よりも人命を大切にしようとした儀兵衛の思いを捉えているか。
終末	3 教師の説話を聞く。		・命が助かることを最優先した過去の地震における事例を紹介する。 ・次時の予告をする。